

令和5年度
アレルギー疾患に関する調査報告

令和6年2月
鹿児島県教育庁保健体育課

アレルギー疾患に関する調査

1 調査の名称

「アレルギー疾患に関する調査」

2 調査目的

近年、アレルギー疾患を有する児童生徒に対する学校の対応は多岐にわたるとともに、今後、ますますの取組の充実が求められる状況にある。本調査は、アレルギー疾患に関する児童生徒の実態及び学校における取組の現状などについて調査し、その結果を分析・評価することで今後の学校での取組等の充実を図ることを目的とする。

3 調査内容

アレルギー疾患に関するインターネット調査

4 調査対象

鹿児島県内の公立小・中・高・特別支援・義務教育学校

5 調査方法

各学校は、調査期間内にインターネット上の開設してある調査ページへアクセスし、調査票の各設問に回答を入力し、送信する。

6 調査時点

令和5年9月1日（金）時点

7 調査期間

令和5年12月8日（金）～令和6年1月10日（水）

8 調査票の校種別回答校数（率）及び児童生徒数

	回答校数（回答率）	学校数*	児童生徒数
小学校	479（100%）	479	84,683
中学校	203（100%）	203	42,869
高等学校	71（100%）	71	29,155
特別支援学校	16（100%）	16	2,648
義務教育学校	10（100%）	10	1,383
計	779（%）	779	160,738

*学校数：令和5年度学校基本調査より（公立）

9 調査結果の見方

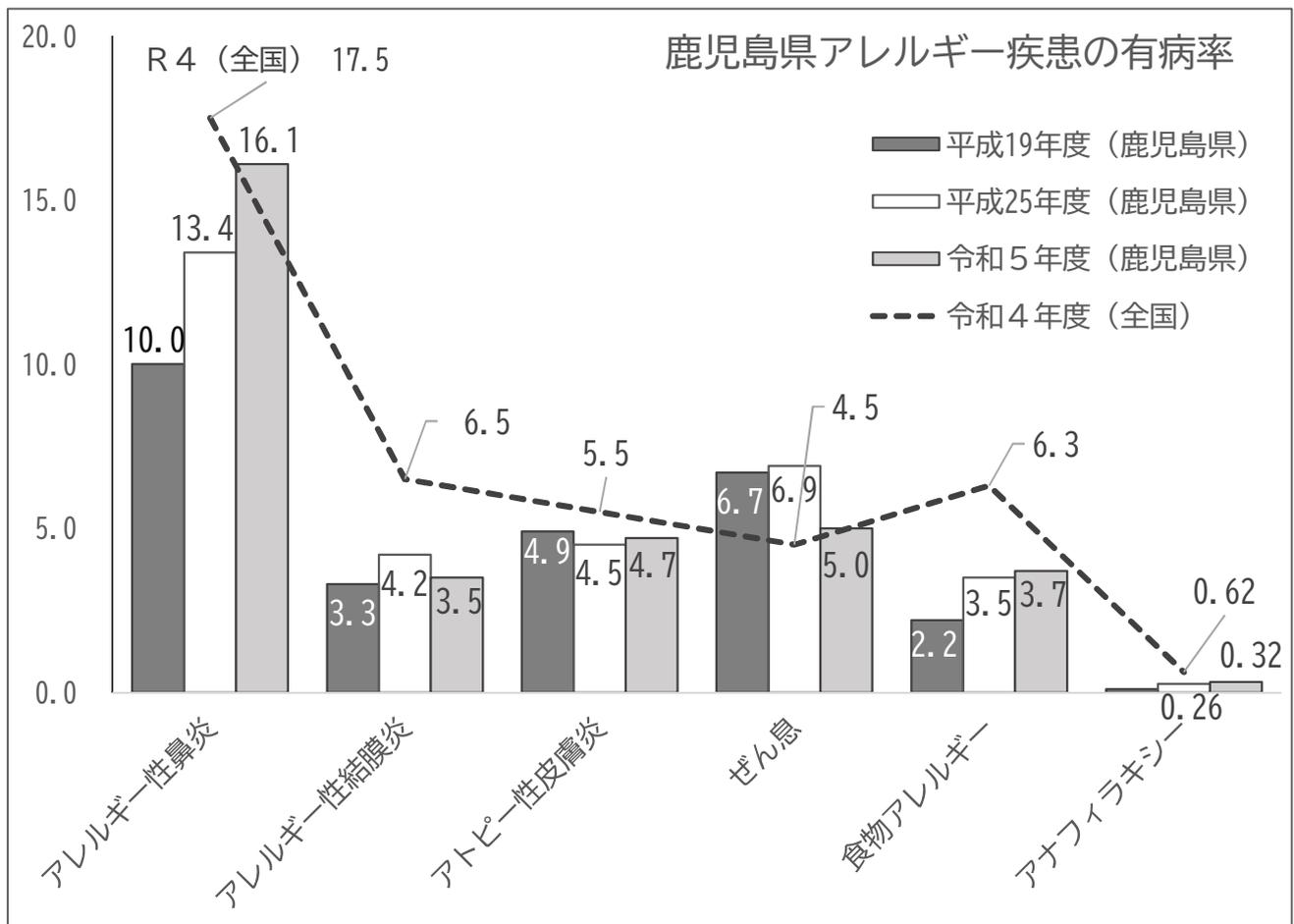
調査結果の割合（%）は、小数点第2位を四捨五入したため、合計した値が100.0（%）とならないところがあるが、表では百分率を示すため合計を100.0（%）と表記している。

【基本情報】

問1 学校における児童生徒数，うちアレルギー疾患のある者等の数と管理指導表の提出者数，これまでのエピペンの使用実績について，お答えください。

		小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	義務教育学校	全体
児童生徒数		84,683	42,869	29,155	2,648	1,383	160,738
アレルギー性 鼻炎	学校が把握している数	12,464	7,284	5,560	464	178	25,950
	有病率	14.7%	17.0%	19.1%	17.5%	12.9%	16.1%
	管理指導表の提出率	1.3%	1.1%	0.5%	3.4%	1.1%	1.1%
アレルギー性 結膜炎	学校が把握している数	2,808	1,730	899	108	63	5,602
	有病率	3.3%	4.0%	3.1%	4.1%	4.6%	3.5%
	管理指導表の提出率	0.9%	1.4%	1.3%	6.5%	1.6%	1.2%
アトピー性 皮膚炎	学校が把握している数	4,192	1,852	1,327	137	59	7,567
	有病率	5.0%	4.3%	4.6%	5.2%	4.3%	4.7%
	管理指導表の提出率	2.0%	1.1%	0.9%	13.9%	5.1%	1.8%
ぜん息	学校が把握している数	4,950	1,882	964	178	80	8,054
	有病率	5.8%	4.4%	3.3%	6.7%	5.8%	5.0%
	管理指導表の提出率	1.3%	0.9%	1.1%	5.1%	2.5%	1.3%
食物アレルギー	学校が把握している数	2,957	1,725	1,120	120	60	5,982
	有病率	3.5%	4.0%	3.8%	4.5%	4.3%	3.7%
	管理指導表の提出率	53.7%	39.4%	8.9%	54.2%	41.7%	41.0%
アナフィラキシー	学校が把握している数	277	121	102	11	0	511
	有病率	0.33%	0.28%	0.35%	0.42%	0%	0.32%
	管理指導表の提出率	76.2%	59.5%	43.1%	100%	0%	66.1%

※「学校が把握している数」には保健調査等による既往歴のある児童生徒も含まれています。



本県のアレルギー疾患の有病率は、「アレルギー性鼻炎」が16.1%、「アレルギー性結膜炎」が3.5%、「アトピー性皮膚炎」が4.7%、「ぜん息」が5.0%、「食物アレルギー」が3.7%、「アナフィラキシー」が0.32%であった。

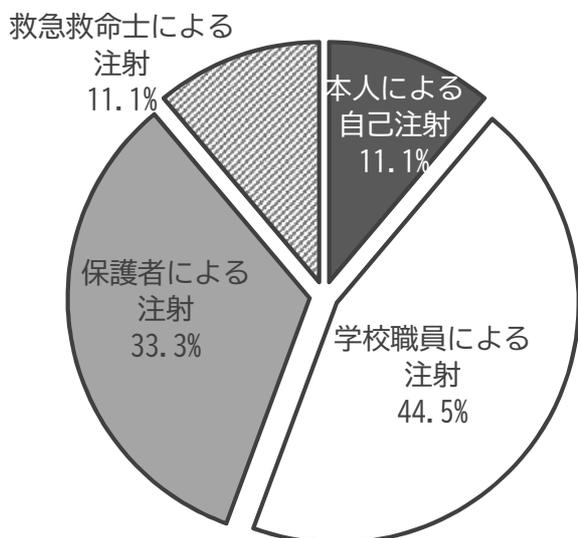
○エピペン保持者

		小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	義務教育学校	全体
児童生徒数		84,683	42,869	29,155	2,648	1,383	160,738
エピペン保持者	学校が把握している数	263	100	51	4	0	418
	所持率	0.31%	0.23%	0.17%	0.15%	0%	0.26%
	管理指導表の提出率	80.6%	77.0%	62.7%	100%	0%	77.8%

エピペンの保持者は0.26%であり、エピペン保持者の学校生活管理指導表の提出率は、全体で77.8%であった。

○エピペン使用者率（令和4年4月1日～令和5年3月31日）

	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	義務教育学校	全体
本人による自己注射	0%	0%	100.0%	0%	0%	11.1%
学校職員による注射	42.9%	100.0%	0%	0%	0%	44.5%
保護者による注射	42.9%	0%	0%	0%	0%	33.3%
救急救命士による注射	14.3%	0%	0%	0%	0%	11.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	0%	0%	100.0%
エピペン保持者数	263	100	51	4	0	418



令和4年4月1日～令和5年3月31日までの間のエピペン使用者は、全体では9件の使用実績があり、使用者としては、本人が1件、学校職員が4件、保護者が3件、搬送先の病院（選択肢では「救急救命士による注射」）が1件であった。

問2 「食物アレルギーに対する管理指導表の提出者」について、管理指導表に記載された原因食物・除去根拠等の記載内容だけでは対応が困難で、令和5年度の対応として年度初め等に、主治医等にお問い合わせをした件数（児童生徒1人に対し1件）をお答えください。

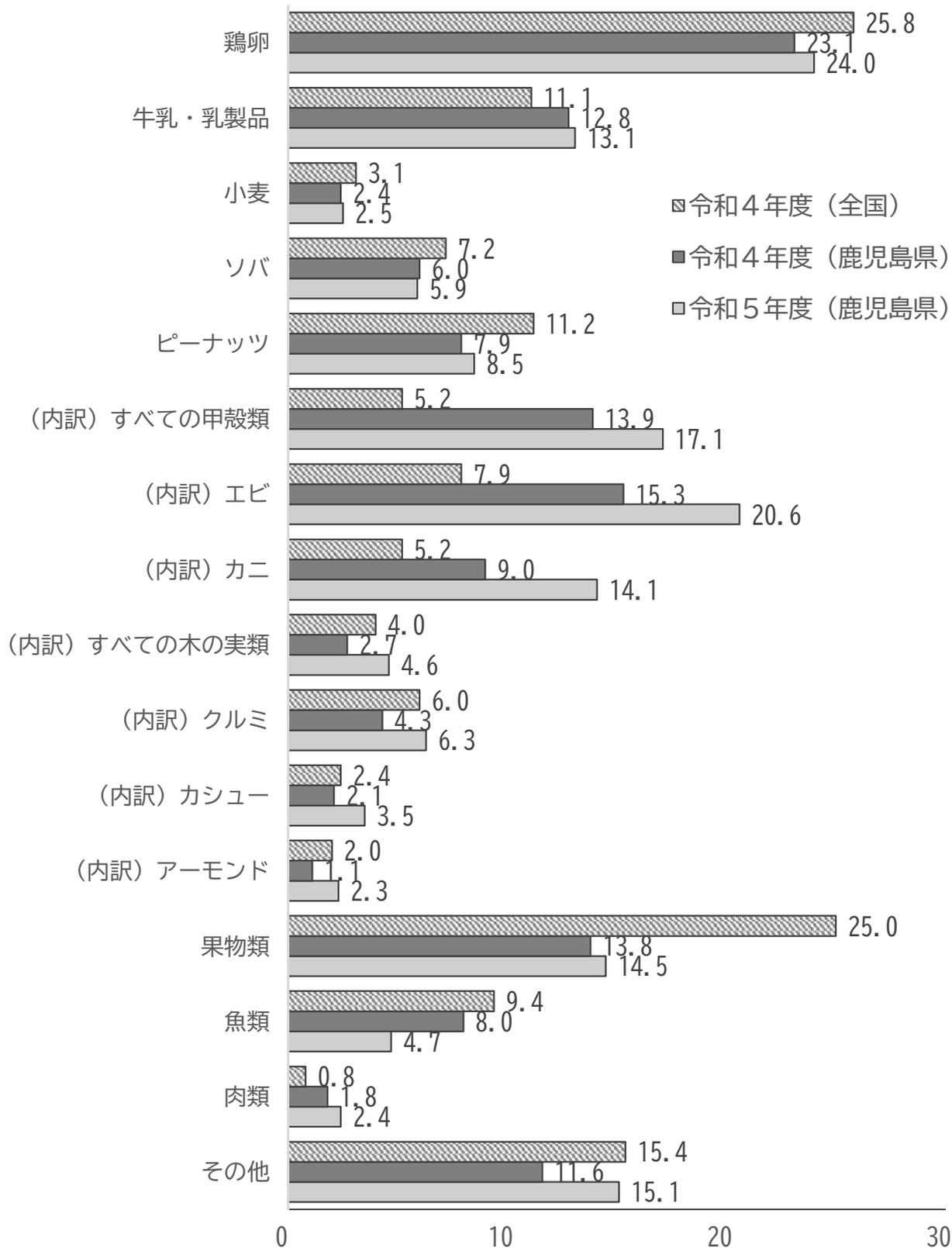
	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	義務教育学校	全体
件数	67	9	1	1	0	78
学校数	18	6	1	1	0	26

主治医等にお問い合わせをした件数は合計78件であり、校種別にみると、小学校が最も多かった。

問3 食物アレルギーにおける原因食物（アレルゲン）別にそれぞれの児童生徒数をお答えください。

食物アレルギー (学校が把握している数)	小学校		中学校		高等学校		特別支援 学校		義務教育 学校		総計	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
鶏卵	849	28.7%	345	20.0%	197	17.6%	27	22.5%	16	26.7%	1,434	24.0%
牛乳・乳製品	422	14.3%	236	13.7%	97	8.7%	14	11.7%	12	20.0%	781	13.1%
小麦	88	3.0%	32	1.9%	24	2.1%	4	3.3%	4	6.7%	152	2.5%
ソバ	154	5.2%	107	6.2%	79	7.1%	7	5.8%	3	5.0%	350	5.9%
ピーナッツ	303	10.2%	127	7.4%	62	5.5%	12	10.0%	4	6.7%	508	8.5%
甲殻類												
(内訳) すべての 甲殻類	364	12.3%	366	21.2%	257	22.9%	26	21.7%	8	13.3%	1,021	17.1%
(内訳) エビ	510	17.2%	412	23.9%	268	23.9%	32	26.7%	12	20.0%	1,234	20.6%
(内訳) カニ	336	11.4%	321	18.6%	152	13.6%	23	19.2%	9	15.0%	841	14.1%
木の実類												
(内訳) すべての 木の実類	175	5.9%	78	4.5%	16	1.4%	6	5.0%	2	3.3%	277	4.6%
(内訳) クルミ	278	9.4%	66	3.8%	24	2.1%	6	5.0%	2	3.3%	376	6.3%
(内訳) カシュー	143	4.8%	47	2.7%	18	1.6%	2	1.7%	1	1.7%	211	3.5%
(内訳) アーモンド	93	3.2%	35	2.0%	7	0.63%	2	1.7%	0	0%	137	2.3%
果物類	421	14.2%	242	14.0%	183	16.3%	12	10.0%	10	16.7%	868	14.5%
魚類	123	4.2%	80	4.6%	67	6.0%	4	3.3%	5	8.3%	279	4.7%
肉類	78	2.6%	33	1.9%	29	2.6%	2	1.7%	2	3.3%	144	2.4%
その他	400	13.5%	240	13.9%	240	21.4%	14	11.7%	7	11.7%	901	15.1%

原因食物（アレルゲン）



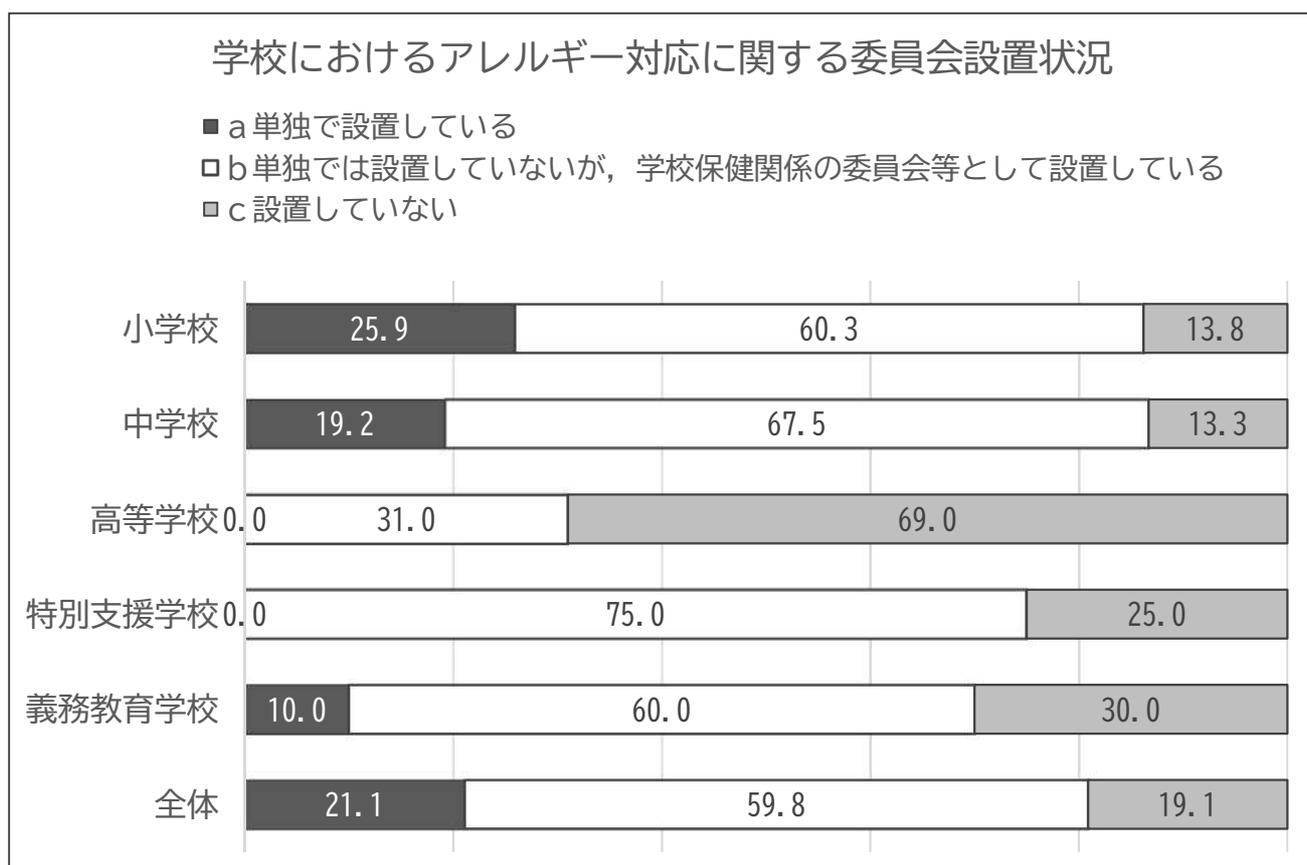
食物アレルギーにおける原因食物（アレルゲン）については、割合が高い順にみると、鶏卵（24.0%）、エビ（20.6%）、すべての甲殻類（17.1%）、果物類（14.5%）、カニ（14.1%）、牛乳・乳製品（13.1%）、ピーナッツ（8.5%）であった。

【学校における保健管理の取組状況】

問4 学校におけるアレルギー対応に関する委員会について、最も近いものを1つ選んでください。

- a 単独で設置している
- b 単独では設置していないが、学校保健関係の委員会等として設置している
- c 設置していない

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	124	25.9%	39	19.2%	0	0%	0	0%	1	10.0%	164	21.1%
b	289	60.3%	137	67.5%	22	31.0%	12	75.0%	6	60.0%	466	59.8%
c	66	13.8%	27	13.3%	49	69.0%	4	25.0%	3	30.0%	149	19.1%
合計	479	100.0%	203	100.0%	71	100.0%	16	100.0%	10	100.0%	779	100.0%

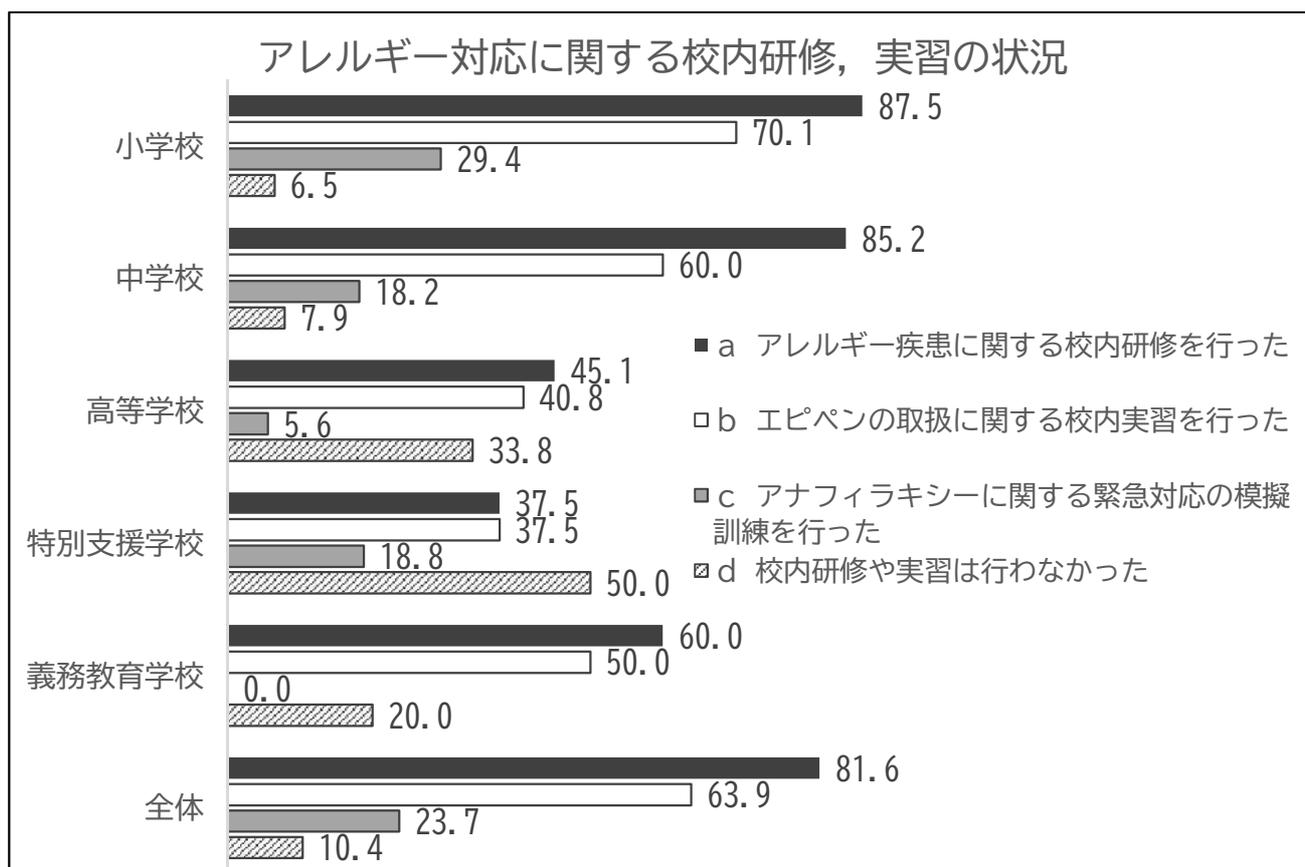


学校におけるアレルギー対応に関する委員会については、「単独で設置している」または「単独ではないが設置している」を合わせると、中学校 86.7%、小学校 86.2%、特別支援学校で 75.0%、義務教育学校 70.0%であった。高等学校では、約7割が設置されていなかった。

問5 令和4年度のアレルギー対応に関する校内研修・実習について、該当する選択肢をすべて選んでください。

- a アレルギー疾患に関する校内研修を行った
- b エピペンの取扱いに関する校内実習を行った
- c アナフィラキシーに関する緊急対応の模擬訓練を行った
- d 校内研修や実習は行わなかった

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	419	87.5%	173	85.2%	32	45.1%	6	37.5%	6	60.0%	636	81.6%
b	336	70.1%	122	60.0%	29	40.8%	6	37.5%	5	50.0%	498	63.9%
c	141	29.4%	37	18.2%	4	5.6%	3	18.8%	0	0%	185	23.7%
d	31	6.5%	16	7.9%	24	33.8%	8	50.0%	2	20.0%	81	10.4%
対象校数	479	—	203	—	71	—	16	—	10	—	779	—

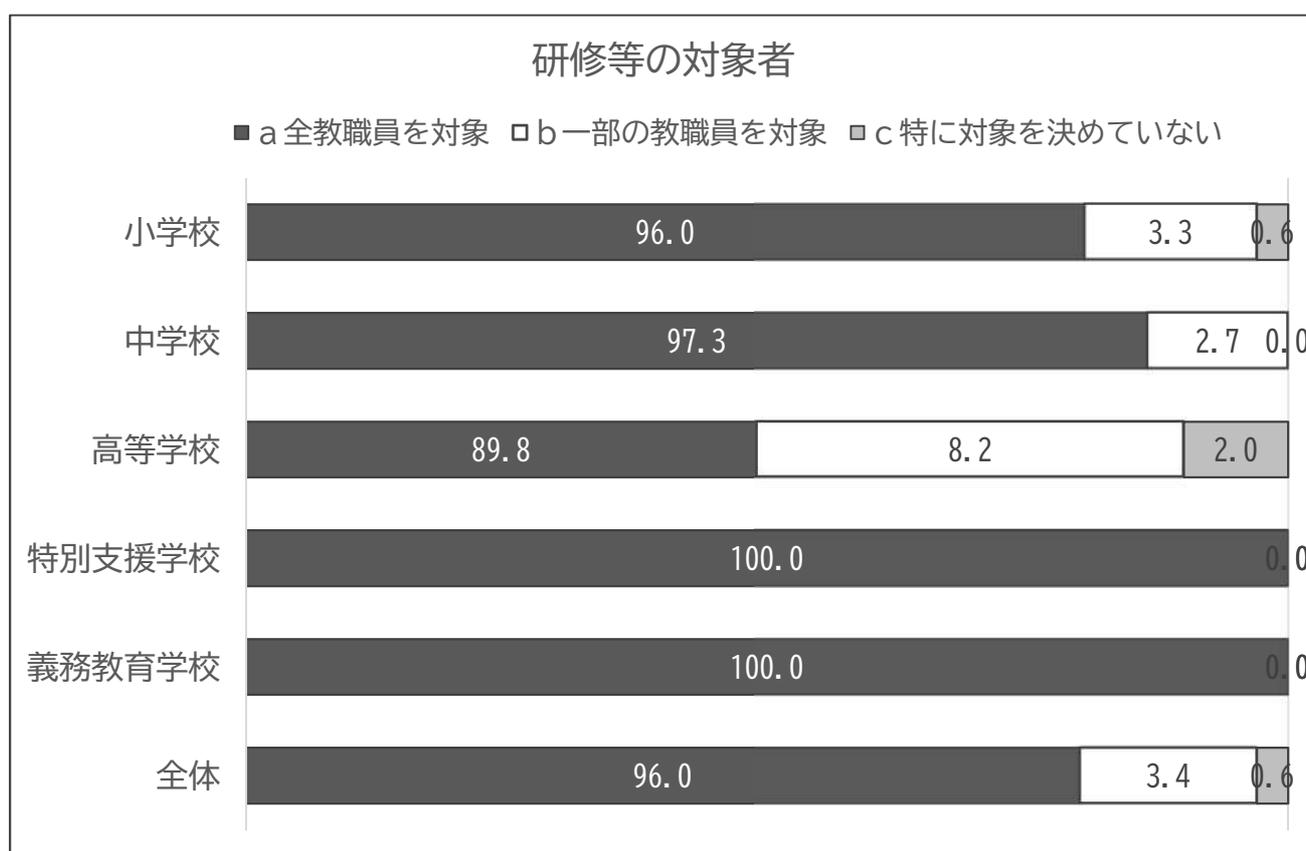


「アレルギーに関する校内研修を行った」のは全体で81.6%であり、「エピペンの取り扱いに関する校内実習を行った」のは63.9%、「アナフィラキシーに関する緊急対応の模擬訓練を行った」のは23.7%であった。高等学校と特別支援学校は校内研修や実習について、30%以上が実施していなかった。

問6 問5で研修等を行った（選択肢 a, b, c のいずれか）と回答された学校にお尋ねします。アレルギー対応に関する研修等の対象者について、最も近いものを1つ選んでください。

a 全教職員を対象 b 一部の教職員を対象 c 特に対象を決めていない

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	432	96.0%	183	97.3%	44	89.8%	8	100.0%	8	100.0%	675	96.0%
b	15	3.3%	5	2.7%	4	8.2%	0	0%	0	0%	24	3.4%
c	3	0.6%	0	0%	1	2.0%	0	0%	0	0%	4	0.6%
合計	450	100.0%	188	100.0%	49	100.0%	8	100.0%	8	100.0%	703	100.0%



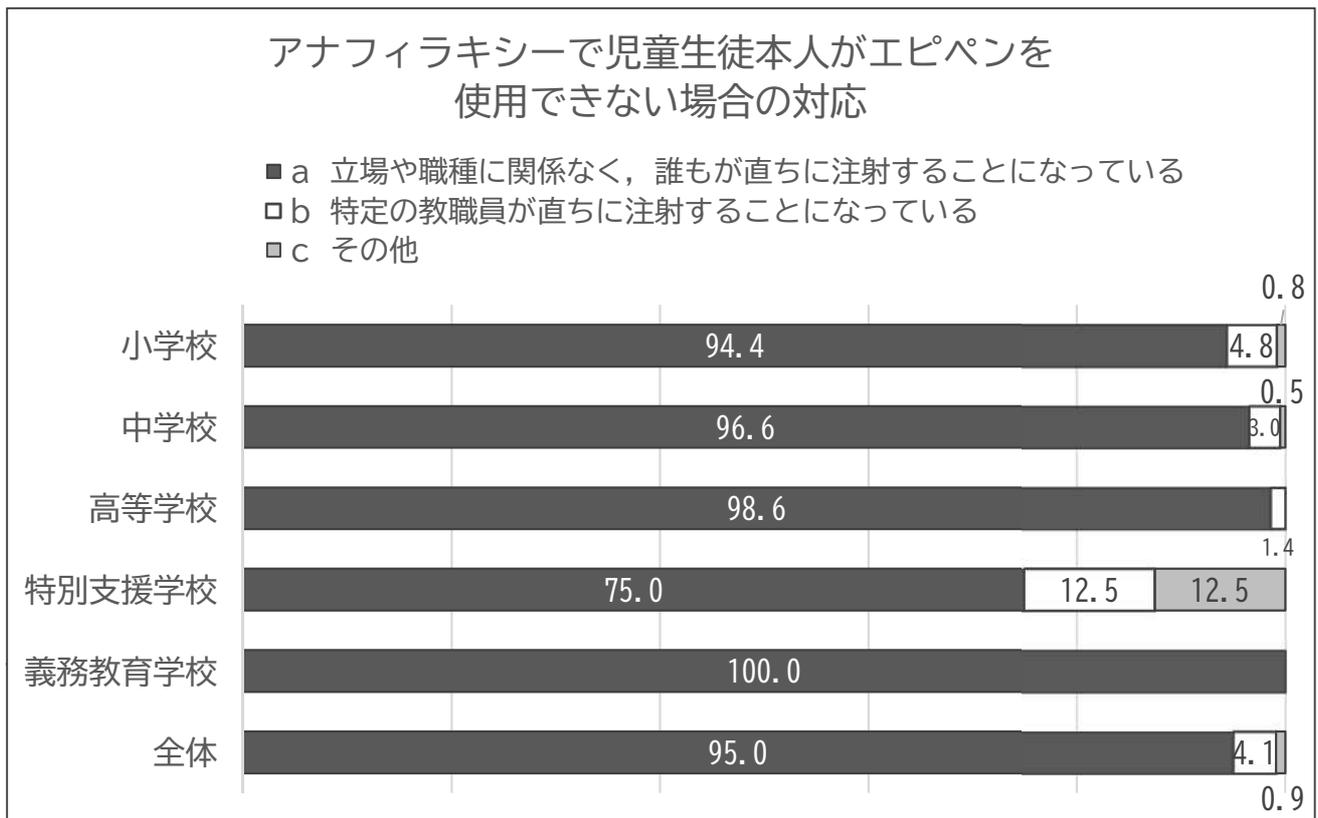
研修等の対象者については、小学校・中学校・特別支援学校・義務教育学校では95%以上が全教職員対象に実施しており、高等学校も89.8%実施していた。

【エピペンについて】

問1 エピペンを処方されている児童生徒がアナフィラキシーの状態にあり、かつ、本人が自らエピペンを使用できない場合の学校側の対応として、どのような対応を行うこととなっているか。最も近いものを1つ選んでください。※該当する児童生徒がいない場合も想定して回答してください。

- a 立場や職種に関係なく、誰もが直ちに注射することになっている
- b 特定の教職員が直ちに注射することになっている
- c その他

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	452	94.4%	196	96.6%	70	98.6%	12	75.0%	10	100.0%	740	95.0%
b	23	4.8%	6	3.0%	1	1.4%	2	12.5%	0	0%	32	4.1%
c	4	0.8%	1	0.5%	0	0%	2	12.5%	0	0%	7	0.9%
合計	479	100.0%	203	100.0%	71	100.0%	16	100.0%	10	100.0%	779	100.0%



エピペンを処方されている児童生徒がアナフィラキシーの状態にあり、かつ、本人が自らエピペンを使用できない場合の学校側の対応については、全体で 95.0%が立場や職種に関係なく誰もが直ちに注射することになっていた。

特別支援学校では、特定の教職員が直ちに注射することになっている割合が、他の校種と比べて高くなっている。

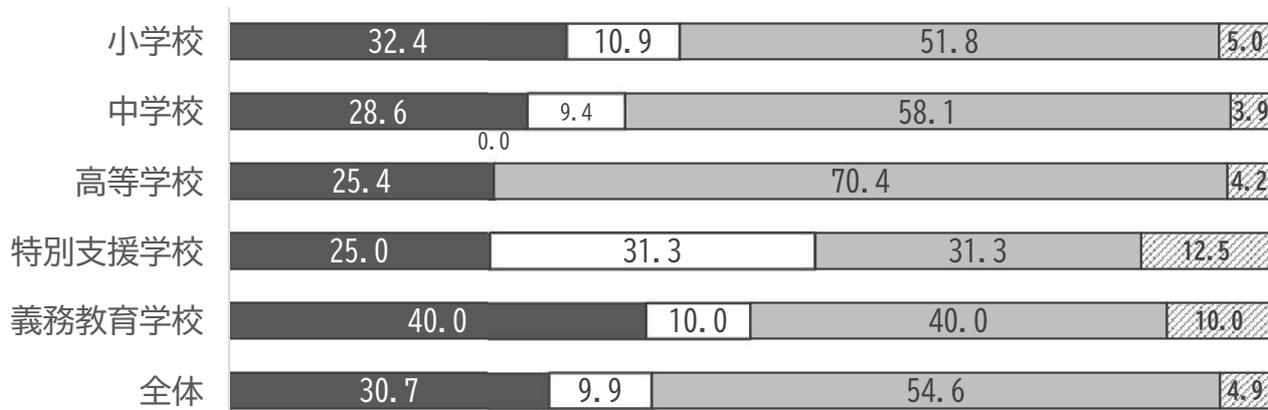
問2 エピペンの管理・保管について、学校での対応に最も近い項目を1つ選択してください。※該当する児童生徒がない場合も想定して回答してください。

- a エピペンは学校で管理・保管するとともに、本人も別にエピペンを保管（携帯）するように求めている
- b エピペンは学校で管理・保管しており、本人の保管（携帯）は求めていない
- c エピペンは学校で管理・保管せず、本人の保管（携帯）状況を管理している
- d エピペンは学校で管理・保管はせず、本人の保管状況も管理していない

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	155	32.4%	58	28.6%	18	25.4%	4	25.0%	4	40.0%	239	30.7%
b	52	10.9%	19	9.4%	0	0%	5	31.3%	1	10.0%	77	9.9%
c	248	51.8%	118	58.1%	50	70.4%	5	31.3%	4	40.0%	425	54.6%
d	24	5.0%	8	3.9%	3	4.2%	2	12.5%	1	10.0%	38	4.9%
合計	479	100.0%	203	100.0%	71	100.0%	16	100.0%	10	100.0%	779	100.0%

エピペンの管理・保管

- a エピペンは学校で管理・保管するとともに、本人も別にエピペンを保管（携帯）するように求めている
- b エピペンは学校で管理・保管しており、本人の保管（携帯）は求めていない
- c エピペンは学校で管理・保管せず、本人の保管（携帯）状況を管理している
- d エピペンは学校で管理・保管はせず、本人の保管状況も管理していない

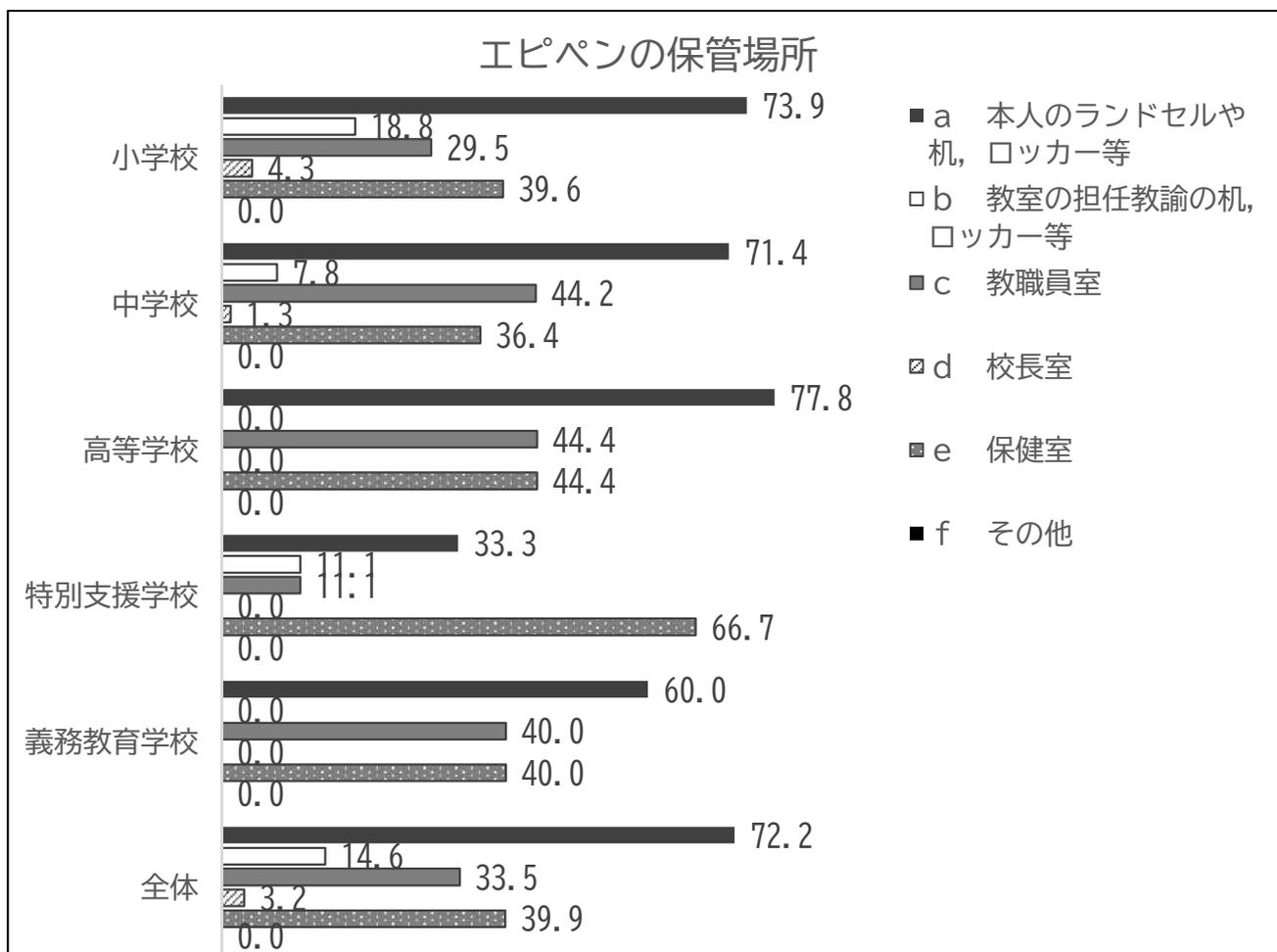


エピペンの管理・保管については、「エピペンは学校で管理・保管せず、本人の保管（携帯）状況を管理している」学校が一番多く、全体では54.6%であった。

問3 問2でエピペンを管理・保管されている（選択肢 a, b）と回答された学校にお尋ねします。エピペンの学校での保管場所について、該当する場所をすべて選んでください。

- a 本人のランドセルや机, ロッカー等
- b 教室の担任教諭の机, ロッカー等
- c 教職員室
- d 校長室
- e 保健室
- f その他

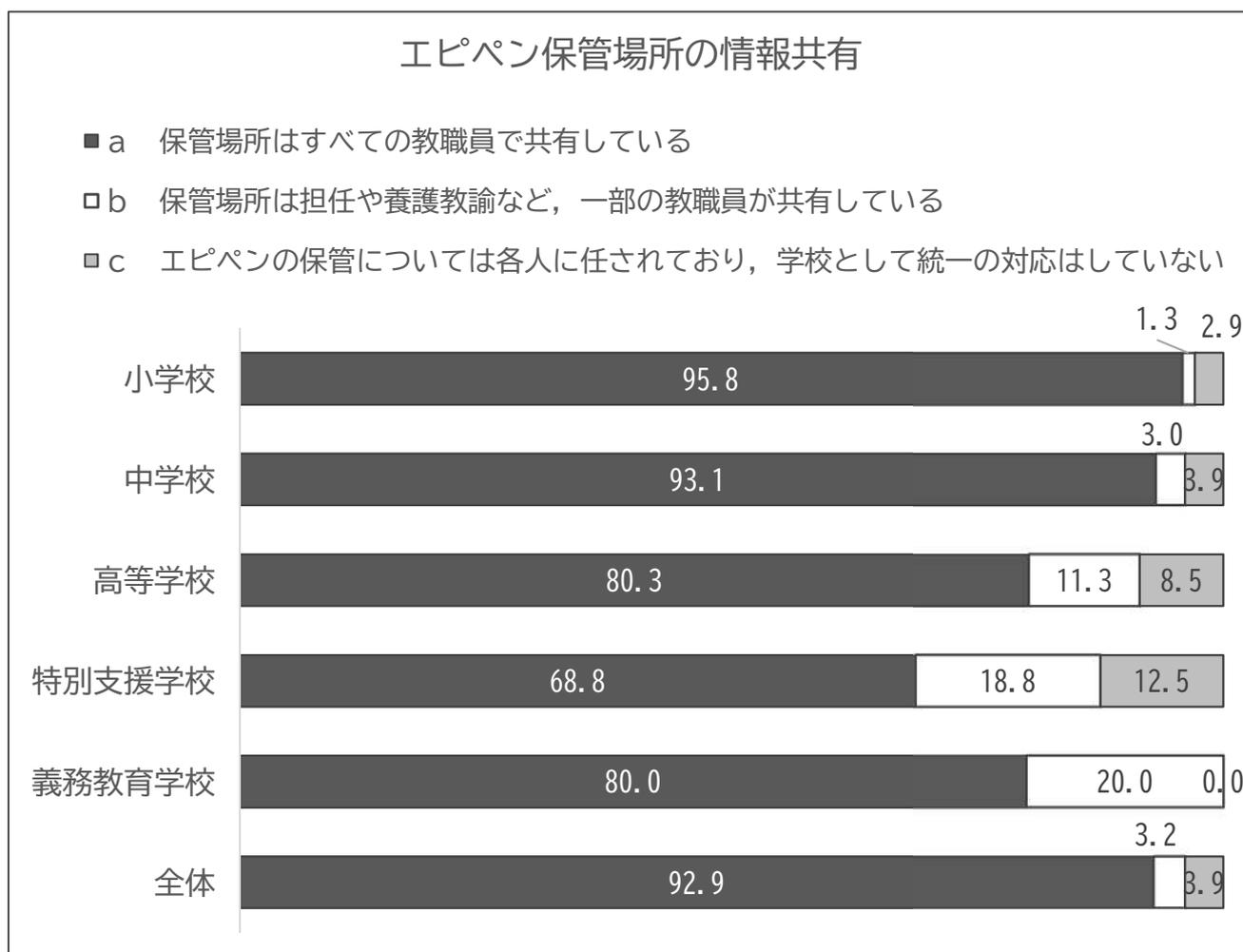
	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	153	73.9%	55	71.4%	14	77.8%	3	33.3%	3	60.0%	228	72.2%
b	39	18.8%	6	7.8%	0	0%	1	11.1%	0	0%	46	14.6%
c	61	29.5%	34	44.2%	8	44.4%	1	11.1%	2	40.0%	106	33.5%
d	9	4.3%	1	1.3%	0	0%	0	0%	0	0%	10	3.2%
e	82	39.6%	28	36.4%	8	44.4%	6	66.7%	2	40.0%	126	39.9%
f	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
対象校数	207	—	77	—	18	—	9	—	5	—	316	—



問4 エピペンの保管場所の情報共有について、学校での対応に最も近い項目を1つ選択してください。

- a 保管場所はすべての教職員で共有している
- b 保管場所は担任や養護教諭など、一部の教職員が共有している
- c エピペンの保管については各人に任されており、学校として統一の対応はしていない

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	459	95.8%	189	93.1%	57	80.3%	11	68.8%	8	80.0%	724	92.9%
b	6	1.3%	6	3.0%	8	11.3%	3	18.8%	2	20.0%	25	3.2%
c	14	2.9%	8	3.9%	6	8.5%	2	12.5%	0	0%	30	3.9%
合計	479	100.0%	203	100.0%	71	100.0%	16	100.0%	10	100.0%	779	100.0%

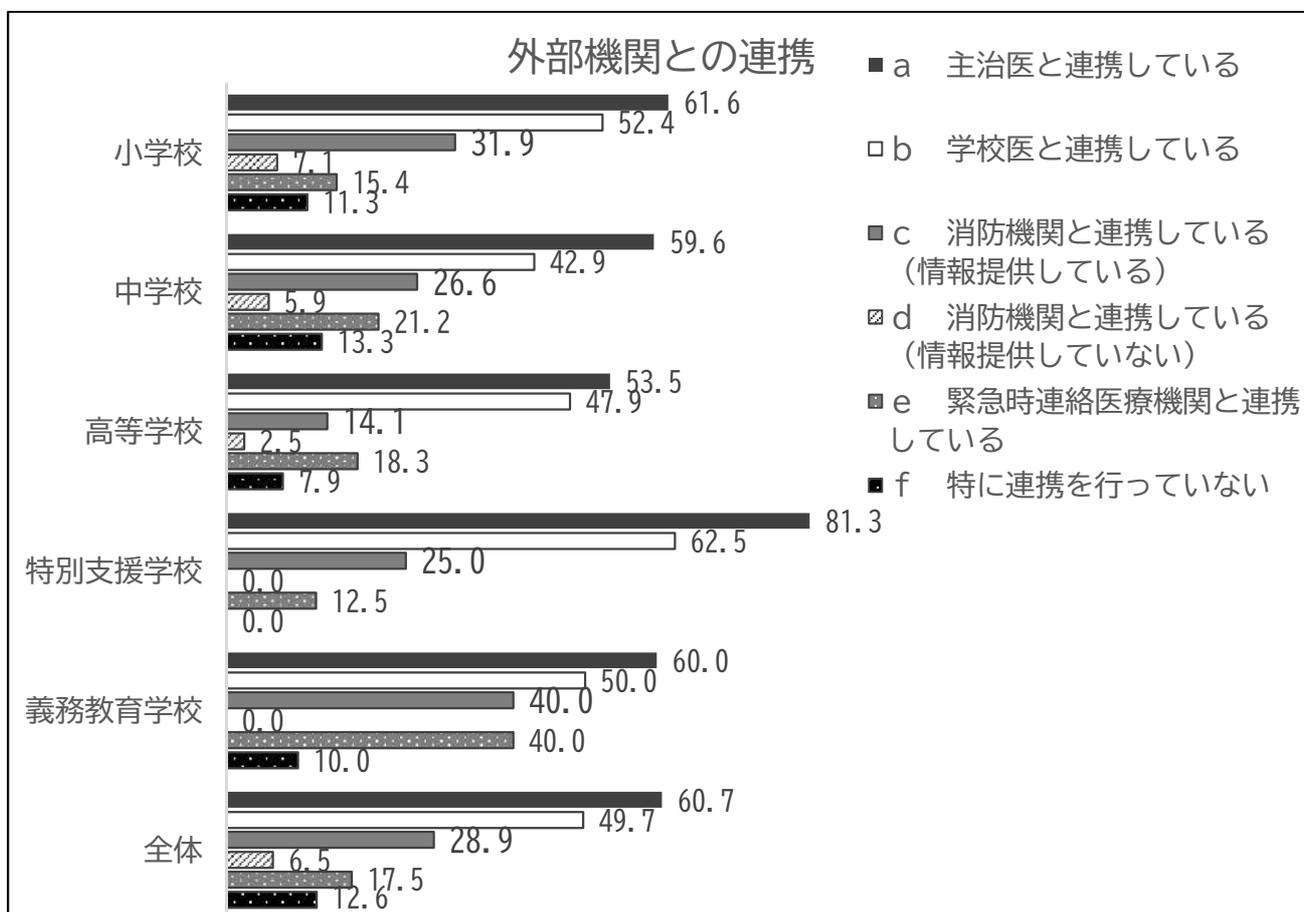


教職員間におけるエピペンの保管場所の情報共有については、全体で「保管場所はすべての教職員で共有している」割合が、90%以上で高かった。

問5 食物アレルギー・アナフィラキシー対応に関する外部機関との連携について、該当する選択肢をすべて選んでください。

- a 主治医と連携している
- b 学校医と連携している
- c 消防機関と連携している
(エピペンを所持している児童生徒の情報を消防機関に提供している)
- d 消防機関と連携している
(エピペンを所持している児童生徒の情報を消防機関に提供していない)
- e 緊急時連絡医療機関と連携している
- f 特に連携を行っていない

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	295	61.6%	121	59.6%	38	53.5%	13	81.3%	6	60.0%	473	60.7%
b	251	52.4%	87	42.9%	34	47.9%	10	62.5%	5	50.0%	387	49.7%
c	153	31.9%	54	26.6%	10	14.1%	4	25.0%	4	40.0%	225	28.9%
d	34	7.1%	12	5.9%	5	2.5%	0	0%	0	0%	51	6.5%
e	74	15.4%	43	21.2%	13	18.3%	2	12.5%	4	40.0%	136	17.5%
f	54	11.3%	27	13.3%	16	7.9%	0	0%	1	10.0%	98	12.6%
対象校数	479	—	203	—	71	—	16	—	10	—	779	—



【学校でのアレルギー疾患への対応や特別に配慮を行っている事項について】

※該当する児童生徒がない場合も想定して回答してください。

① ぜん息について該当する選択肢すべてを選んでください。

- a 管理指導表の提出を必須とし、管理指導表に基づいて対応
- b 学校への持参薬の確認をしている
- c 持参薬の学校での使用に関して、支援・援助をしている
- d 運動（体育・部活動等）への参加について配慮している
- e 動物との接触やホコリ等の舞う環境での活動について配慮している
- f 宿泊を伴う校外活動について配慮している
- g 緊急時の対応や連絡体制について、学校、保護者、医療機関等で共通理解を図っている
- h 特に取組はない

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	99	20.7%	34	16.8%	9	12.7%	3	18.8%	1	10.0%	146	18.7%
b	240	50.1%	104	51.2%	24	33.8%	12	75.0%	8	80.0%	388	49.8%
c	231	48.2%	94	46.3%	13	18.3%	10	62.5%	7	70.0%	355	45.6%
d	358	74.7%	164	80.8%	59	83.1%	11	68.8%	9	90.0%	601	77.2%
e	299	62.4%	127	62.6%	15	21.1%	8	50.0%	9	90.0%	458	58.8%
f	406	84.8%	180	88.7%	45	63.4%	13	81.3%	9	90.0%	653	83.8%
g	320	66.8%	140	69.0%	31	43.7%	11	68.8%	7	70.0%	509	65.3%
h	23	4.8%	7	3.5%	4	5.6%	1	6.3%	1	10.0%	36	4.6%
対象校数	479	—	203	—	71	—	16	—	10	—	779	—

ぜん息においては、「宿泊を伴う校外活動について配慮している」割合が83.8%と最も高く、次いで「運動（体育・部活動等）への参加について配慮している」が77.2%、「緊急時の対応や連絡体制について、学校、保護者、医療機関等で共通理解を図っている」が65.3%の順に高かった。

② アトピー性皮膚炎について該当する選択肢すべてを選んでください。

- a 管理指導表の提出を必須とし管理指導表に基づいて対応
- b 学校への持参薬の確認をしている
- c 持参薬の学校での使用に関して、支援・援助をしている
- d 運動（体育・部活動等）への参加について配慮している
- e 水泳指導の際に配慮している
- f 宿泊を伴う校外活動について配慮している
- g 動物との接触について配慮している
- h 発汗後のスキンケア等について配慮している
- i 特に取組はない

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	74	15.5%	27	13.3%	7	9.9%	2	12.5%	0	0%	110	14.1%
b	228	47.6%	90	44.3%	15	21.1%	12	75.0%	7	70.0%	352	45.2%
c	255	53.2%	99	48.8%	15	21.1%	11	68.8%	6	60.0%	386	49.6%
d	275	57.4%	145	71.4%	51	71.8%	8	50.0%	5	50.0%	484	62.1%
e	352	73.5%	159	78.3%	10	14.1%	12	75.0%	8	80.0%	541	69.5%
f	340	71.0%	155	76.0%	34	47.9%	13	81.3%	7	70.0%	549	70.5%
g	249	52.0%	92	45.3%	11	15.5%	7	43.8%	8	80.0%	367	47.1%
h	294	61.4%	133	65.5%	29	40.9%	10	62.5%	6	60.0%	472	60.6%
i	33	6.9%	9	4.4%	8	11.3%	1	6.3%	0	0%	51	6.6%
対象校数	479	—	203	—	71	—	16	—	10	—	779	—

アトピー性皮膚炎においては、「宿泊を伴う校外活動について配慮している」割合が70.5%と最も高く、次いで「水泳指導の際に配慮している」が69.5%、「運動（体育・部活動等）への参加について配慮している」が62.1%の順に高かった。

③ アレルギー性鼻炎・結膜炎について該当する選択肢すべてを選んでください。

- a 管理指導表の提出を必須とし、管理指導表に基づいて対応
- b 学校への持参薬の確認をしている
- c 持参薬の学校での使用に関して、支援・援助をしている
- d 水泳指導について配慮している
- e 宿泊を伴う校外活動について配慮している
- f 特に花粉の飛散時期やホコリの多い日等の屋外活動について配慮している
- g 特に取組はない

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	64	13.4%	23	11.3%	7	9.9%	2	12.5%	0	0%	96	12.3%
b	226	47.2%	86	42.4%	14	19.7%	12	75.0%	5	50.0%	343	44.0%
c	239	49.9%	90	44.3%	10	14.1%	11	68.8%	6	60.0%	356	45.7%
d	305	63.7%	129	63.6%	8	11.3%	10	62.5%	8	80.0%	460	59.1%
e	330	68.9%	147	72.4%	26	36.6%	12	75.0%	8	80.0%	523	67.1%
f	256	53.4%	107	52.7%	20	28.2%	8	50.0%	4	40.0%	395	50.7%
g	305	63.7%	133	65.5%	46	64.8%	9	56.3%	4	40.0%	497	63.8%
対象校数	479	—	203	—	71	—	16	—	10	—	779	—

アレルギー性鼻炎・結膜炎においては、「宿泊を伴う校外活動について配慮している」割合が67.1%と最も高く、次いで、「特に取組はない」が63.8%、「水泳指導について配慮している」が59.1%の順に高かった。

④ 食物アレルギー・アナフィラキシーについて該当する選択肢すべてを選んでください。

- a 管理指導表の提出を必須とし、管理指導表に基づいて対応
- b 緊急対応薬（エピペンを含む。）の確認をしている
- c 学校給食喫食時の配慮（席を離す，別室にするなど）をしている
- d 食物・食材を扱う授業・活動について配慮している
- e 運動（体育・部活動等）への参加について配慮している
- f 宿泊を伴う校外活動について配慮している
- g 緊急時の対応や連絡体制について、学校、保護者、医療機関等で共通理解を図っている
- h 学級等で、食物アレルギーの理解を深めるための指導等を行っている
- i 学校給食等に関する個別的な相談指導を行っている
- j 特に取組はない

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		義務教育学校		全体	
	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%	学校数	%
a	413	86.2%	152	74.9%	29	40.9%	12	75.0%	7	70.0%	613	78.7%
b	390	81.4%	170	83.7%	49	69.0%	13	81.3%	8	80.0%	630	80.9%
c	236	49.3%	80	39.4%	2	2.8%	5	31.3%	4	40.0%	327	42.0%
d	406	84.8%	166	81.8%	51	71.8%	14	87.5%	6	60.0%	643	82.5%
e	252	52.6%	116	57.1%	36	50.7%	6	37.5%	10	100.0%	420	53.9%
f	436	91.0%	197	97.0%	60	84.5%	15	93.8%	9	90.0%	717	92.0%
g	420	87.7%	179	88.2%	48	67.6%	13	81.3%	5	50.0%	665	85.4%
h	348	72.7%	119	58.6%	10	14.1%	5	31.3%	5	50.0%	487	62.5%
i	364	76.0%	139	68.5%	3	4.2%	11	68.8%	7	70.0%	524	67.3%
j	10	2.1%	3	1.5%	1	1.4%	0	0%	0	0%	14	1.8%
対象校数	479	—	203	—	71	—	16	—	10	—	779	—

食物アレルギー・アナフィラキシーにおいては、「宿泊を伴う校外活動について配慮している」の割合が92.0%と最も高く、次いで「緊急時の対応や連絡体制について、学校、保護者、医療機関等で共通理解を図っている」が85.4%、「食物・食材を扱う授業・活動について配慮している」が82.5%の順に高かった。